

視察報告書:

所属会派	おかや未来研究室	氏名	武井 友則
視察の名称	一般社団法人FAPによるプログラミング学習		
日程	令和 3年 11月 18日 (木)		
視察要点等	全国的にICT教育が進められているなか、一般社団法人FAPでは子供たちにテクノロジーやプログラミングに触れる楽しさを伝えている。団体名のFAPは、ふれる、あそぶ、プログラミング。の頭文字である。		

【概要】

一般社団法人FAP(エフ・エー・ピー)は、2017年から石川県金沢市を中心に全国で活動。学校の授業やプログラミングスクールで学ぶ前の子供たちにテクノロジーに触れる楽しさを伝えている。学校でも始まっているプログラミング学習の導入になるような内容を楽しみ重視で行っている。

自治体や民間のイベント企画・運営、公民館 でのイベント開催、学校での講義など、悩みを伺いながら、様々な要望に対応。イベント企画や運営・アドバイス・プログラミング機材貸出や教材開発、お手伝いなどを行っている。

【内容】

視察自体は一般社団法人FAPに依頼していたが、金沢市の厚意により、はじめに金沢市直営の施設である金沢未来のまち創造館の視察を行った。金沢未来のまち創造館は廃校になった4階建ての小学校の校舎を改修、一部増築し整備された「スタートアップ・新ビジネス創出」、「子供の独創力育成」、「食の価値創造」の3つを柱に事業展開し、金沢市における新たな産業の創出と未来で活躍する人材の輩出を図るための施設である。金沢市が管理運営を行い、3つの事業は公募型プロポーザルにより選定された一般社団法人CLLが担う、官民連携型の価値創造拠点施設。総工費10億円程。

1階は公民館やカフェスペース、展示スペースとなっていた。展示スペースでは施設で行われている研究についてなど展示されていた。

2階にはシェアオフィスやコワーキングスペース、また託児室も用意されていた。シェアオフィスの入れる企業には最先端技術を活用し新たなビジネスを展開するもの、食と工芸に付加価値を生み出すもの等、基準があり、新たな価値を生み出す企業を選んでいるとのことであった。

3階は多目的室やワークスタジオとなっていたが、子どものフロアとの位置づけもあり、FAPなどで学び、興味を持った子供がステップアップして学べるIT部活という取り組みも行っていった。

4階は研究のフロアであり、調理室や研究室が整備されていた。調理関係の機器がとても充実しており、金沢の食文化にかける思いの大きさがうかがえた。

金沢未来のまち創造館を視察した後、ITビジネスプラザ武蔵という施設に移動し、一般社団法人FAPの取り組みについて話を伺った。市民活動からは始まっており、デジタル人材の裾野を広げることも目的であることが分かった。子どもたちにIT・デジタルといっても様々な分野があり、将来なりたいビジョンをはっきりさせるためにもたくさん分野にふれられる環境が必要であるとの思いから活動をしていた。FAPの取り組みを入口として学校の授業やクラブ、民間のプログラミング塾でさらに学び、ロボコンへの出場や、実際の課題解決にプログラミングを活用できるようになることを期待していた。

【視察の感想】

FAPの取り組みの視察に加えて、金沢市の素晴らしい施設も見ることができお得な視察であった。子ども達にプログラミングに親しんでもらおうと取り組んでいる団体があり、そしてさらに深く学ぶための施設も市によって整備されているというのは子どもたちにとっては素晴らしい環境である。民間と市の連携がよく取れている印象があり、官民の連携の重要性を改めて感じた。